

2014年3月期決算 IR 説明会(2014/5/9 開催)

質疑応答内容

Q: 14/3 期決算は 4Q で一過性損益を計上しているが、セグメント別の内訳を教えてください。

A: 14/3 期の一過性損益として、機械部門で▲90 億円程度、エネルギー・金属部門はネットで▲140 億円程度、生活産業部門で+70 億円程度の一過性損益を認識した。

Q: 15/3 期のエネルギー・金属部門は前期比+52 億円の増益予想となっているが、増益の内訳を教えてください。

A: エネルギー・金属部門で 14/3 期において計上した減損の反動をみるほか、15/3 期ではモリブデン・石油・石炭の価格を多少保守的に見ている。また、メタルワン、LNG ジャパンなどの持分法適用会社の業績については、堅調に推移するとみている。

Q: 海外自動車関連子会社について為替洗替損を計上したが、どのような背景で計上したのか。

A: 一部海外自動車関連事業を展開している地域において、足元でインフレがかなり進んでいることから、為替洗替損を計上した。

Q: 15/3 期のベネズエラとロシアでの自動車事業の状況を教えてください。

A: ロシアは 14/3 期後半から新型車を投入し、販売は順調。15/3 期も 4 月以降の販売については問題ないと報告を受けている。ベネズエラでは外貨送金規制が続いており、慎重にオペレーションを行っている。

Q: 15/3 期見通しについては、▲100 億円の非経常損失を見込んでいるとの説明があったが、具体的にどのような損失をイメージされているのか。

A: 今期の▲100 億円の見方については、一部海外自動車関連事業のインフレ調整や、資産入替コスト等を織り込んだもの。資産入替については、具体的な案件を予定していない。

Q: 今期のフリーキャッシュ・フローの見通しについて教えてください。

A: 今期は投融資を積極的に実行していきたいと考えており、フリーキャッシュ・フローの見通しはマイナスを見込んでいる。

Q: ROA2%の実現に向けて、具体的な施策を中心に定量的に示してほしい。

A: ROA 2%という目標は中計発表時の最終年度の計画、当期純利益 450 億円という目標に対して総資産 2 兆 1 千億円前後を前提として計算したもの。この水準に現状達していない理由は、一部海外自動車関連事業における政情不安と、エネルギー・金属部門の市況予想の読み誤りの 2 つであった。これらを立て直すだけでなく、機械部門のインフラ・環境関連や航空機関連、生活産業部門などでの案件の積み上げによる、新たな収益のカバーで、今後 ROA 2%を実現したい。

Q:ROA 2%の達成は、どれくらいのタイムフレームで達成する見通しなのか教えてほしい。

A:ROA 2%の達成はできるだけ早くしたいと考えている。今期 800 億円以上の投融資を加速して実行していく計画をしているが、投資確度の高い部署に、ヒト・モノ・カネを集中させることで、ROA 2%を 2015 年度には実現できるよう取り組んでいる。

Q:生活産業部門の 14/3 期実績は、一過性の要因を除くと概ね 100 億円の純利益となり、今期計画が 100 億円の純利益とほぼ横ばいの計画になるが、その内訳について教えてほしい。

A:14/3 期に好調に推移した海外肥料事業は 15/3 期では減益になると見ている。一方、建材や繊維、食品関連子会社を中心に収益改善を見込んでいる。また、海外工業団地について引き続き堅調に推移するとみている。

以上